

栄養士に向けての学び

健康栄養コース

スポーツ栄養関連科目

- ②スポーツ栄養情報処理演習
- ③スポーツ栄養指導実習
- ③スポーツ栄養クッキング

栄養教諭二種免許状

- ③学校栄養教育論など

栄養士免許を持った
栄養教諭になろう！

栄養・食生活
ライフ
ステージ
傷病者

社会生活と健康

- ③公衆衛生学 ●
- ④社会福祉論

人体の構造と機能

- ①解剖生理学 ●
- ①運動生理学 I ●
- ②解剖生理学実験
- ②生化学実験
- ③運動生理学 II

食品と衛生

- ①食品学総論
- ①食品衛生学
- ①食品学実験
- ②食品衛生学実験
- ④食品加工学
- ④食品加工学実習

栄養と健康

- ①栄養学総論
- ①スポーツ栄養学 I ●
- ②応用栄養学 ●
- ②応用栄養学実習
- ③栄養機能食品論
- ③栄養学実験 ●
- ③臨床栄養学実習
- ③臨床栄養学概論 ●

栄養の指導

- ①栄養教育指導論I ●
- ②栄養教育指導論II
- ②栄養教育指導論実習
- ②公衆栄養学概論
- ③公衆栄養学実習

- ①生涯スポーツ科学 ●
- ②スポーツ栄養学 II ●
- ③健康体力評価論 ●
- ④理学療法論 ●
- ①健康管理概論 ●
- ②応急手当実習 ●

導入教育

- ①基礎生物学演習 (選択)
- ①コメディカル領域の生物学演習
- ①基礎化学演習 (選択)
- ①コメディカル領域の化学演習

給食の運営

- ①調理科学
- ①基礎調理学実習
- ②給食計画・実務論
- ②給食運営管理実習
- ③応用調理学実習 I
- ③給食管理実習 (校外) I
- ④応用調理学実習 II

ライフサイエンス関連科目

- ②健康食育論
- ②生活習慣病と食生活
- ②健康福祉論
- ③食生活論
- ③グローバルヘルスプロモーション

健康・福祉関連科目

- ①障害者とスポーツ
- ②国際栄養論
- ②健康福祉論
- ③国際健康福祉プログラム I
- ④国政健康福祉プログラム II
- ④災害時の食事・栄養管理実習
- ④社会福祉援助技術

学科共通専門科目・その他

- ①基礎演習 I・II
- ③専門演習 I・II
- ④卒業論文

選択科目

健康スポーツコース

健康と運動関連科目追加科目

- ①トレーニング実践演習 I
- ①トレーニング実践演習 II
- ①体育原理
- ②臨床医学概論
- ②運動プログラム論 ●
- ②身体運動 II ●
- ②機能運動論 ●
- ②応急手当実習 ●
- ②学校保健
- ③身体運動実習 I ●
- ③スポーツ医学 ●
- ③身体運動 III ●
- ③運動生理学実習
- ④トレーニング論
- ④体育心理学

運動・スポーツ指導関連科目

- ①健康スポーツ指導法 II
- ②健康スポーツ指導法 I
- ②保健体育科指導法 I
- ③健康スポーツ指導法 III
- ③健康スポーツ指導法 IV
- ③保健体育科指導法 III
- ③保健体育科指導法 IV
- ④コーチング論
- ④スポーツマネジメント論

体力測定・評価
運動科学
スポーツ医学
運動の指導

生活習慣病予防
健康寿命延伸
栄養指導

障害者対応
福祉・介護

栄養士免許を持った
保健体育教諭になろう！

「2020年度入学生用」

健康スポーツ栄養学科

数字の①～④は履修回生

学士力醸成

社会人基礎力育成

指導力の高い栄養士

資格・養成講座

- ・実践健康教育士受験資格
- ・健康運動実践指導者受験資格
- ・スポーツ栄養アドバイザー受験資格

健康スポーツ栄養学科は、全学共通のディプロマ・ポリシーに基づき、知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性・多様性・協働性が、次の基準に達している者に学士(栄養学)を授与する。

【知識・技能】

- ・栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。
- ・健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。

【思考力・判断力・表現力等の能力】

- ・栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。
 1. 小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。
 2. アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。
 3. 国際貢献ができる能力を持つ。
- ・社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。
- ・世界の食文化および世界の栄養学の現状を理解し、世界の健康に寄与するリーダーと成りうる資質(自立心・対話力・創造性)を有している。

【主体性・多様性・協働性】

- ・栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。
- ・国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。
- ・地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。

健康スポーツ栄養学科は、学生がディプロマ・ポリシーに定める基準に到達できるよう、次のように教育課程を編成する。

【教育課程の編成】

- ・人間栄養学に立脚し、「健康」をテーマに、人生を楽しむための「食・栄養」と「運動・スポーツ」について、栄養士として人の一生を支えることのできる能力を獲得した人材の輩出を目指すカリキュラム(栄養士養成指定科目)体系を構築している。
- ・栄養に関わる科目のみならず、運動・スポーツの科学的かつ実践的学習ができる科目を加えており、栄養と運動の両面から「健康」に関する専門的教育を行うカリキュラムを編成している。
- ・「栄養士関連科目」「スポーツ栄養関連科目」「健康運動実践指導関連科目」「ライフサイエンス関連科目」「健康・福祉関連科目」「資格関連科目」「その他「導入教育」「単位互換科目」の9つの科目群に、適切に科目を設置している。
- ・「健康栄養コース」「スポーツ栄養コース」を設置し、体系的な学習を促している。「健康栄養コース」では、主として人間が健康長寿を全うするために必要な知識を身に付け、科学的根拠に基づいた実践および指導ができる能力を身に付ける。「スポーツ栄養コース」では、主として人間が人生を楽しむためあるいはアスリートとして競技に臨むために必要な知識を身に付け、科学的根拠に基づいた実践および指導ができる能力を身に付ける。

【教育内容】

1. 学年毎の教育内容
 - ・初年次では、「食・栄養」を中心とした栄養学総論・調理科学・健康管理概論などの導入教育とこれからの4年間に身に付けるべき知識と技術についての概念を形作るための「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を設定し、大学教育における主体性を身に付け、2年次以降の学習の基盤を作る。
 - ・2年次では、栄養士免許取得のための解剖生理学・食品衛生学・栄養教育指導論Ⅰ・Ⅱなどの「栄養士関連科目」と、食を幅広く捉える公衆栄養学・給食運営管理実習などの「ライフサイエンス関連科目」およびスポーツについての基礎を学ぶスポーツ医学・機能運動論などの「スポーツ栄養関連科目」を根幹に設定し、健康・スポーツに精通する栄養士となるための知識と技術の獲得を目指す。さらに「専門演習Ⅰ・Ⅱ」では、次年時に行う卒業研究(卒業論文作成)に向けた知識の獲得やテーマの構築・研究態度の養成を行う。
 - ・3年次では、健康についてグローバルな視野から考えるための「健康・福祉関連科目」と、フードスペシャリスト他の資格取得のための「資格関連科目」、および運動指針に基づく健康づくりと身体機能の維持・改善について学ぶ「健康運動実践指導関連科目」を設定し、健康のスペシャリストとなるための知識と技術の習得を重視する。
 - ・4年次では、栄養とスポーツの関係性についての高い専門的内容を学ぶ「スポーツ関連科目」を設定し、「食・栄養」と「運動・スポーツ」の関わりについて専門的知識と専門的技術を身に付け、加えて卒業論文を作成し、学びの集大成とする。
2. 科目群毎の教育内容
 - ・「栄養士関連科目」に属する科目群では、健康の維持・増進、疾病・障害の予防についての科学的知識と実践力および指導力を身に付ける。
 - ・「スポーツ栄養関連科目」に属する科目群では、運動・スポーツの現場において必要な科学的知識と実践力および指導力を身に付ける。
 - ・「健康運動実践指導関連科目」に属する科目群では、健康の維持・増進、疾病・障害の予防についての科学的知識に基づいた実践力および指導力(身体活動指導技術)を身に付ける。
 - ・「ライフサイエンス関連科目」に属する科目群では、人間社会において必要な経済活動・食品機能などについての知識を身に付ける。
 - ・「健康・福祉関連科目」に属する科目群では、地域・社会・国際社会における健康・福祉・災害と食・栄養についての幅広い知識と実践力および指導力を身に付ける。
 - ・「資格関連科目」に属する科目群では、本学科において取得可能な資格に関する専門的知識を身に付け、それぞれの資格の取得を目指す。
 - ・「その他」に属する科目群では、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「専門演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業論文」により、大学における学びの姿勢・研究態度の養成・学びの集大成を行う。
 - ・「導入教育」に属する科目群では、高等学校における生物・化学の復習から、栄養学への発展(導入)が円滑に行われるように知識の整理を行う。
 - ・「単位互換科目」に属する科目群では、他大学における授業を履修することにより、広い視野から自らの専門分野を俯瞰する能力を身に付ける。

【教育方法】

- ・本学科では、本学の教育理念「自立心・対話力・創造性」に基づき、栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識および指導技術を有する女性を育てることを重視している。
- ・各科目には、専門的知識と技能を有する専任教員を配置するとともに、きめ細かい教育を行うため、専門的知識と技術を有する非常勤講師や学外特別講師を臨機応変に招聘し、時代に適した人間栄養学を实践する栄養士を養成するカリキュラムを構築している。特に、国内においては、地域に存在するアマチュアまたはプロスポーツチームとの連携・協力、行政との協働、医療施設や食品会社との協同事業への参加など、多くの実践的学習の機会を設けている。さらに国内外の大学・施設との交流や共同プロジェクトなども積極的に行っており、学内における通常の学びや実験(実習)の充実のみならず、卒業までに身に付けるべき能力の獲得を目指している。

【学修成果の評価方法】

- ・本学科では、定期試験やレポートによる評価に加え、グループワークへの貢献度やその内容についても評価を行う。すなわち、単なる知識の取得のみならず、教授された知識を基に、得られた結果について考察する能力を身に付けたか、また、疑問を解決するために成すべき努力を自ら率先して発揮できるかどうか、様々な方法による評価を行う。
- ・卒業論文の作成に当たっては、論文作成への取り組み(研究への積極性・科学的評価の方法・文章作成能力)などについて多様な評価を行い、卒業論文発表会を実施して、客観的評価も行う。

健康スポーツ栄養学科は、カリキュラム・ポリシーで定める教育内容を全うし、ディプロマ・ポリシーで定める基準に達する見込みがある者として、次のような人物を求める。

【知識・技能】

- ・基礎学力として高校で履修するすべての科目の勉学に励んだ者。
- ・自然科学(社会・理科・数学)や人文科学(国語・外国語)のみならず、保健体育や部活動(課外活動)にも関心を持ち、実践している者。

【思考力・判断力・表現力等の能力】

- ・生涯にわたる生活(小児から高齢者に至るまで)やスポーツ(健康増進のための運動からアスリートに至るまで)に必要なとされる栄養学的・スポーツ科学的知識と技術を身に付けたいと考える者。
- ・身につけた栄養学的・スポーツ科学的知識に基づいて、技術的実践をしたいと考える者。
- ・自らの考え・意見を適切にまとめ、発信する力を伸ばすことができる者。

【主体性・多様性・協働性】

- ・地域において、栄養と運動(スポーツ)を通して健康づくりにより、社会に貢献したいと考える者。
- ・栄養・運動の両面から、社会(食育・アスリート・高齢者・障害者・災害時・他)に貢献したいと考える者。
- ・栄養と運動(スポーツ)を通して、国際社会に貢献したいと考える者。